

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	抱志織		
入学年度	平成 30 年度	学籍番号	h18gg903
領域	総合リハビリテーション科学	分野	
審査委員	主査	尾田 敦	
	副査	吉田 英樹	
	副査	藤田あけみ	
	副査	高見 彰淑	

論文題目：自己装着可能なループ式アームスリング装着時の歩行や基本動作に及ぼす影響

審査結果要旨：本研究は、自己装着可能な伸縮性ループ式アームスリングに注目し、歩行や基本動作に及ぼす影響について、三角巾との比較に基づき検討したものである。第1章では、三次元解析装置を用い、ループ式アームスリングが、装着側の足関節底屈と膝屈曲が大きくなる傾向を見いだせた。第2章では、三角巾で歩行率が大きくなり、立ち座りでの上肢の揺れの加速度が大きくなったことから、装着上肢が体幹から離れて動作の妨げになっている可能性を、歩行および三軸加速度計の解析から示唆できた。一方、ループ式アームスリングでは、非装着と比べて差がなかったことから有用性を示すことができた。第3章では、脳卒中患者を対象に複数動作後の装着状況に関し、ループ式アームスリングが、肘関節での固定性が不良であるものの、肩関節でのずれは少ないことを示し、利点や欠点を明らかにした。これらの結果は、臨床的に重要な内容を含み、臨床応用に向けて有用な情報が収集できている。また、当該専門分野における新知見を多数含んでおり、かつ非常に有益と判断される。

申請者は、学位審査論文及び学位審査会を通じ、本研究の意義、結果に対する解釈において的確にすすめられており、充分周知の上で研究がなされていた。さらに、質疑応答においても的確に対応し、研究の理解も十分であった。また、研究遂行にあたり、計画・実施・データ収集・解析等の過程において申請者は独立した研究者として研究の遂行ができる高い能力を有していること、研究限界にも触れながら、適切な倫理的手続きに基づき研究を進めてきたことが、学位審査論文および学位審査会において確認された。したがって、申請された学位審査論文は博士の学位に値すると判断した。

最終試験 令和 3 年 2 月 2 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。